

「研究開発段階炉安全設計方針検討会（仮称）」の設置について

平成 25 年 8 月 12 日

日本原子力学会 新型炉部会

1 背景

新型炉部会では、「新安全基準勉強会」を組織し、原子力規制委員会が作成した規制基準案に対して、5 月 9 日にパブリックコメントを提出した。その後、6 月 12 日の原子力規制委員会本会議にて、研究開発段階発電用原子炉に対する規制基準については「今後、安全審査を行うまでに、パブリックコメントによる意見も含め改めて検討し基準を見直すこととし、今回は修正を行わない。」とされた。6 月 19 日の原子力規制委員会本会議で提示された研究開発段階炉に対する規制基準は、「軽水炉の新基準（地震・津波の基準を含む）をベースとして、旧原子力安全委員会が定めた『高速増殖炉の安全性の評価の考え方』の要求事項を加える等により策定したもの」であるが、上記のとおり、今後見直し検討が必要な状況である。

原子力規制委員会では、これまで発電用原子炉及び試験研究炉に対する規制基準は外部有識者で構成される検討チームを組織し、規制基準案の検討を重ねた。一方、研究開発段階炉に対する規制基準については、検討チームをまだ組織していないことから、今後、検討チームを発足させ検討を始めるものと考えられる。

2 設置目的

原子力規制委員会で発足されると思われる検討チームにおける規制基準検討に資することを目標とする。そのため、新型炉部会として、研究開発段階炉に対する安全設計の考え方を整理することを目的として、「研究開発段階炉安全設計方針検討会（略称：研開炉検討会）（仮称）」を設置する。

3 進め方

第 1 回検討会に論点を摘出し、第 2 回検討会以降に論点を議論していく。年末を目途に提言内容をまとめしていく。

4. 開催頻度と期間

原則、毎月実施することとし、設置期間は平成 26 年 3 月までとする。

5. 委員構成

新型炉部会メーリングリストで呼びかけて幅広く参加者を募り、オープンとする。

以上

「研究開発段階炉安全設計方針検討会（仮称）」の進め方について（案）

1. 検討方針

本検討会は、原子力規制委員会で発足されるであろう検討チームで議論いただけるように、研究開発段階炉に対する安全設計の考え方を提言することを目標としている。その目標に向けて、原子力規制委員会で定めた規制基準及び新型炉部会より提出したパブリックコメントをベースとして、研究開発段階炉の特徴を踏まえた安全設計の方針を検討する。規制基準の個々の条文にとらわれず、研究開発段階炉の安全性を向上するための考え方や留意点をまとめることとする。

2. 委員募集方法

委員は、軽水炉及び新型炉の設計及び安全評価の検討に関わった方々が主な対象となるが、多様な意見が出るように、新型炉部会の幅広い分野から募集する。募集方法は新型炉部会メーリングリストで募集する。

3. 論点

第1回検討会にて参加者により論点を摘出し、第2回検討会以降でその論点を議論していく。例えば、以下のような論点が考えられる。

- ・研究開発段階炉は不確かさが大きい故、厳しい規制基準とすることとなっているが、具体的なポイントは何か？
- ・必ずしも軽水炉と同様の設備追加によるのではなく、炉の特性を考慮した対策を具体化すべき。例えば熱容量などを考慮してもいいのではないか？
- ・決定論的安全評価における判断基準に対する余裕、あるいは、確率論的安全評価による炉心損傷頻度の低減を指標として有効な対策を摘出すべきではないか？

4. 開催日

第1回検討会を8/29午前に開催し、第2回以降は後日調整する。

なお、原子力規制委員会の検討チームの発足タイミングを見て、検討会の開催も調整する。

5. 事務局

第1回検討会にて事務局を定める。

以上